

第19期 第8回町田市立図書館協議会次第

■日 時：2023年1月11日（水） 14：00～16：00

■場 所：町田市立中央図書館 6階ホール

■次 第：

1. 議事録確認

第19期町田市立図書館協議会第7回定例会議事録（要旨）【資料1】

2. 移動図書館について

新たな学校づくりにともなう図書館サービス拠点の設置について【資料2-1】

利用状況の推移【資料2-2】

個人貸出冊数の推移【資料2-3】

3. 図書館評価について

2021年度事業実績報告シート【資料3-1】

2021年度図書館外部評価に関する報告【資料3-2】

4. 図書館からの報告事項について【資料4】

南町田駅前連絡所の閉所に伴う予約資料受渡しサービス拠点の移転について
【資料5】

鶴川図書館の再編に伴う市民協働型の運営について【資料6-1】

現状と課題の詳細【資料6-2】

鶴川駅前図書館の運営状況について【資料7】

利用者アンケートの実施について【当日配布資料】

5. その他

【次回開催予定】

・日 時：2023年2月14日（火）14：00～16：00

・場 所：町田市立中央図書館 6階ホール

第19期 第8回町田市立図書館協議会当日配布資料一覧

事前送付資料

- 資料1 第19期町田市立図書館協議会第7回定例会議事録（要旨）
- 資料2－1 新たな学校づくりにともなう図書館サービス拠点の設置について
- 資料2－2 利用状況の推移
- 資料2－3 個人貸出冊数の推移
- 資料3－1 2021年度事業実績報告シート
- 資料3－2 2021年度図書館外部評価に関する報告
- 資料4 図書館からの報告
- 資料5 南町田駅前連絡所の閉所に伴う予約資料受渡しサービス拠点の移転について
- 資料6－1 鶴川図書館の再編に伴う市民協働型の運営について
- 資料6－2 現状と課題の詳細
- 資料7 鶴川駅前図書館の運営状況について

当日配布資料

- 2022年度図書館利用者アンケート（総合満足度抜粋版）
- 鶴川図書館の再編説明会を行います

新たな学校づくりにともなう図書館サービス拠点の設置について

町田市では 2040 年度までに学校統合にともなう新たな学校づくりの計画を進めているところです。学校は、市内各所に設置されており、利用者としては、アクセスしやすい場所であると考えられます。

このため、新たな遠隔地サービスのひとつとして、新たな学校に予約資料受渡場所の設置の可能性について、検討していきたいと考えています。

現状を踏まえて、下記の内容についてご意見をお聞きしたいと思います。

1 現状

図書館における将来的なサービス拠点について、これまで検討をしてきたところです。その中で、遠隔地サービスとしては、主に移動図書館と予約資料受渡場所があります。

(1) 移動図書館

移動図書館巡回場所では、利用登録・更新、資料の閲覧・貸出、予約資料の受取、返却、リクエスト用紙の提出、読書相談ができます。

移動図書館車は 3 台で、巡回場所 1 カ所につき、2 週間に 1 回、30 分から 50 分の間、滞在しています。

(2) 予約資料受渡場所

予約資料受渡場所では、予約資料の受取、返却、リクエスト用紙の提出ができます。
現在市民センターなど 5 施設に設置しています。

(3) 利用状況

資料 2－2、2－3 から、遠隔地サービスにおける予約受付件数や貸出冊数が、増えてきている状況が見受けられます。

2 検討事項

(1) 新たな学校に予約資料受渡場所を設置することについて、メリットや課題などについてご意見をお聞かせください。

(2) 新たな学校に予約資料受渡場所を新設する場合、遠隔地サービスに関する予算や資源の再配分を検討する必要があります。そこで、移動図書館との比較の観点からご意見をお聞かせください。

なお、運営費用から考えると、移動図書館 1 台分の年間経費（約 1,700 万円）で、予約資料受渡場所は 4 ヶ所程度*設置が可能と考えています。

※予約資料受渡機能のみで、学校図書館の地域開放などの費用は含まない。

利用状況の推移

項目	2017	2018	2019	2020	2021
①来館者数(BM除く)	2,041,910	2,089,332	1,892,224	1,397,116	1,486,517
②個人貸出冊数(図書)	3,648,971	3,577,767	3,181,681	2,618,846	3,109,633
③貸出人数	1,150,443	1,129,189	1,001,652	819,046	952,558
④予約受付件数	633,967	642,241	621,823	606,915	708,282

この表から見られることは、2017年度から比較して、来館者数は減少しているが、予約受付件数は増えています。このことから、必要な本を事前に予約してから、来館する傾向が見て取れそうです。

個人貸出冊数の推移（移動図書館・予約受渡場所）

下記の表は、過去5年間の移動図書館と予約受渡場所における個人貸出冊数の推移を表しています。
遠隔地サービスを利用した貸出冊数は、増加傾向にあるようです。

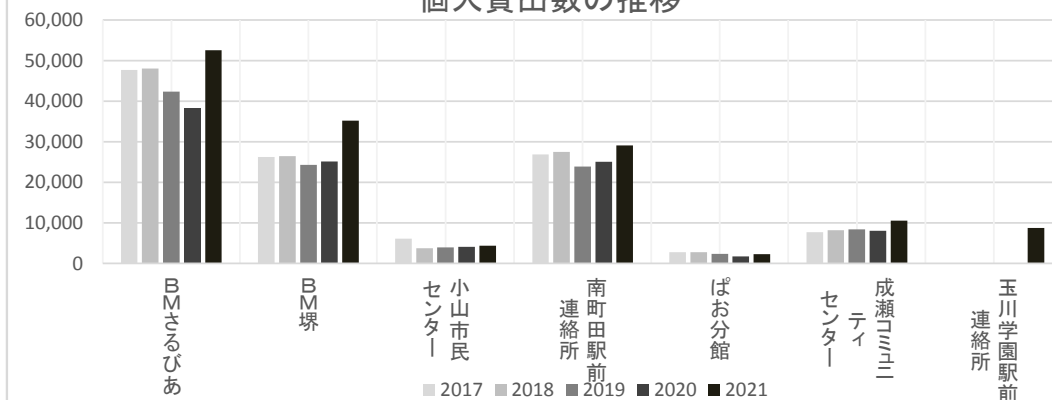
(単位:冊、点)

		2017	2018	2019	2020	2021
BM さるびあ	一般	26,525	25,715	22,772	20,499	29,216
	地域資料	14	17	6	4	7
	雑誌	3,678	4,227	3,644	3,118	3,917
	児童	17,487	18,040	15,945	14,568	19,392
	ハンディキャップ	2	1	2	5	1
	計	47,706	48,000	42,369	38,194	52,533
BM堺	一般	12,540	13,055	11,522	11,528	15,934
	地域資料	4	10	5	20	9
	雑誌	1,210	929	664	876	1,357
	児童	12,471	12,467	12,115	12,703	17,890
	ハンディキャップ	0	0	0	0	1
	計	26,225	26,461	24,306	25,127	35,191
	BM合計	73,931	74,461	66,675	63,321	87,724

(単位:冊、点)

		2017	2018	2019	2020	2021
小山市民 センター	一般	4,195	2,709	2,767	2,428	2,744
	地域資料	23	12	30	32	7
	雑誌	301	186	172	233	226
	児童	1,586	797	970	1,364	1,370
	ハンディキャップ	1	0	2	0	2
	計	6,106	3,704	3,941	4,057	4,349
南町田駅 前連絡所	一般	17,839	18,207	15,937	17,051	19,571
	地域資料	77	58	44	56	40
	雑誌	1,406	1,336	1,308	1,118	1,074
	児童	7,522	7,853	6,574	6,842	8,357
	ハンディキャップ	3	9	3	8	13
	計	26,847	27,463	23,866	25,075	29,055
ぱお分館	一般	1,494	1,469	1,336	981	1,099
	地域資料	7	3	6	6	16
	雑誌	50	62	64	48	35
	児童	1,187	1,249	910	681	1,150
	ハンディキャップ	2	0	0	0	0
	計	2,740	2,783	2,316	1,716	2,300
成瀬コミュ ニティ センター	一般	5,073	5,675	6,045	5,699	7,196
	地域資料	16	20	12	15	15
	雑誌	422	396	396	412	482
	児童	2,189	2,082	1,902	1,934	2,863
	ハンディキャップ	2	1	3	0	9
	計	7,702	8,174	8,358	8,060	10,565
玉川学園 駅前連絡 所	一般					6,613
	地域資料					13
	雑誌					191
	児童					1,886
	ハンディキャップ					1
	計					8,704
	予約場所合計	43,395	42,124	38,481	38,908	54,973

個人貸出数の推移



■取組2-3 子ども読書活動の推進【◇】	図書館
----------------------	-----

事業概要	生涯にわたって主体的に読書をする習慣を身に付けることができるよう、子ども読書活動の推進に関する全市的な取組をまとめた「第四次町田市子ども読書活動推進計画（2020年度～2024年度）」を策定・推進します。特に、子どもの読書活動に合わせた図書資料の充実とともに、小学校英語の教科化などの動向を踏まえ、外国語の絵本・児童書等を重点的に整備します。				
これまでの取組	第三次町田市子ども読書活動推進計画（2015年度～2019年度）に基づき、庁内各部署で計32の取組を実施するとともに、計画の進捗管理を「子ども読書活動推進計画推進会議」を通じて行っています。				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	①第四次町田市子ども読書活動推進計画の策定		第三次計画に基づく事業の実施	策定完了（2019年度）	
	②外国語の絵本・児童書の蔵書数		3,966冊	6,500冊	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	第四次計画の策定	第四次計画に基づく事業の推進 推進会議を通じた事業の進捗確認の実施			
	外国語の絵本・児童書の計画的購入・活用 利用状況等の検証				利用状況等の検証
年度目標（指標①）	第四次計画の策定完了	事業の推進 進捗確認	事業の推進 進捗確認	事業の推進 進捗確認	事業の推進 進捗確認
年度目標（指標②）	4,500冊	5,000冊	5,500冊	6,000冊	6,500冊

＜2021年度の事業実績＞

達成状況（指標①）	B 目標を達成した
取組状況（指標①）	・町田市子ども読書活動推進計画推進会議を開催し、事業の進捗確認を行いました。
達成状況（指標②）	A 計画以上に目標を達成した
取組状況（指標②）	・外国語児童書の充実にもつたふるさと納税を導入するなどして外国語の絵本・児童書の蔵書数が約6,100冊となり目標値を大きく上回りました。 ・外国語の絵本・児童書を活用するため、英語多読講演会を2回実施しました。また、・英語多読を定着させるため、2021年7月に結成された市民による多読サークルの伴走支援を行いました。
課題	・町田市子ども読書活動推進計画推進会議について、さらに活発な意見交換ができるよう進行方法について検討する必要があります。 ・「英語多読コーナー」を地域館へ拡大するため、まだ設置していない館の書棚の確保や資料の整備等課題の洗い出しをする必要があります。
今後の取組の方向性	・「英語多読コーナー」を地域館へ拡大するため、各館の書棚を確保すると共に外国語の絵本・児童書について計画的な購入を継続します。 ・市民による多読サークルを引き続き支援します。

<外部評価>

外部評価者の
コメント

【評価】

活動指標①

「子ども読書活動推進計画推進会議を開催し、事業の進捗確認を行った」ことについて、会議が年2回、各2時間と制限のある中で、事前質問の受付もあり、年々効率的に質疑応答がなされるよう工夫され、充実してきていることは喜ばしい限りです。さらに具体的な取組状況も今後示してください。

取組状況（指標②）

外国語の絵本・児童書の蔵書数が目標を達成でき、蔵書回転率も向上したこと、また、英語多読のコーナー設置、英語多読講演会の実施、英語多読の会成立など、英語多読のための企画が進んでいることは喜ばしいことです。具体的な取り組みが外国語の絵本・児童書の蔵書数で示され、英語の絵本・児童書の蔵書数の目標値が挙げられています、このような方法により具体的進捗がよく分かります。

【関連事項提言等】

- ・2023年度の目標値が第四次の推進計画「策定完了」というのはやや不適切と考えます。策定についてだけでなく、計画自体の実施状況も目標とすべきです。
- ・委員各位の推進計画内容への理解が深まるような一層の工夫が望まれます。
- ・もし、6,100冊の蔵書のほとんどが英語の書籍ならば、外国語と表記せず、英語と表記すべきです。事業概要の取組目標値が英語の書籍だけでは不十分です。
- ・英語を重視することは理解できますが、思考は主に母語である日本語で行われますので、英語とともに、日本語の絵本・児童書の蔵書数の目標も同時に挙げ、その実現を目指すことが望ましいです。
- ・前年の評価にも書きましたが、町田に住む外国人のために、人口比に応じて、英語以外の、例えば、中国語や韓国語、あるいはその他の言語の絵本・児童書も今後一定程度購入すべきだと考えます。

■取組2-4 学校図書館との連携強化【◇】	図書館
-----------------------	-----

事業概要	小・中学校の学校図書館への支援や子どもの読書活動を充実させるために、図書館から学校図書館への貸出のしくみを改善するなど、支援方法を見直して、学校図書館と図書館との連携を強化します。				
これまでの取組	さるびあ図書館を拠点に、「学校図書館支援貸出」（しらべ学習等に対応して、図書館が選書を行って提供する）により、小・中学校の学校図書館へ本を車で配本するサービスを行っています。また、学校図書指導員への研修に協力しています。				
活動指標	指標	現状値（2017年度）	目標値（2023年度）		
	①学校図書館支援貸出利用校数	35校	42校		
	②学校図書館支援貸出数	3,768冊	4,500冊		
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	▶ 学校図書館支援貸出の実施				
	▶ 新たな支援 内容の検討	▶ 貸出方法等の改善 新たな支援の実施			▶ 支援内容 の検証
年度目標 (指標①)	35校	37校	39校	40校	42校
年度目標 (指標②)	3,800冊	4,080冊	4,220冊	4,360冊	4,500冊

<2021年度の事業実績>

達成状況 (指標①)	D 目標に達しなかった
取組状況 (指標①)	・学校図書館支援貸出は、28校が利用しました。新型コロナウイルスの影響により休館・休校、授業編成変更等があり、利用は少なくなりました。 ・教員・図書指導員の研修会では、連携サービスの紹介・利用案内のほか、図書指導員等から要望のあった「図書の選書方法」、「おすすめ本紹介」を講義しました。 ・学校・学校図書館への連携サービス改善のため、調査やヒアリング等の検討・準備をしましたが、実施までには至りませんでした。 ・「テーマ別貸出セット」構築のため、資料を追加購入しました。
達成状況 (指標②)	D 目標に達しなかった
取組状況 (指標②)	・学校図書館支援貸出の冊数は、2,535冊でした。
課題	・学校図書館とのコミュニケーションを深め、更なるニーズ把握に努める必要があります。
今後の取組の 方向性	・学校図書館について、調査やヒアリング等を行い、学校ごとの状況を把握し、各学校のニーズにあったサービスの提供に努めます。 ・学校図書館支援貸出、研修会協力、移動図書館訪問サービス、団体貸出資料の配本サービス等を引き続き行い、学校図書館への支援と連携に努めます。

<外部評価>

外部評価者の コメント

【評価】

・新型コロナウイルス感染症が流行する以前は、多くの学校が市立図書館の見学を実施していました。それらは公共施設の見学という目的で行っていましたが、図書館に親しみを覚える上でも有効でした。感染状況により、見学をひかえる学校があるかもしれませんが、今後も見学を希望する学校のために継続して受け入れをお願いしたいです。

・学校図書館への学校支援（支援貸出・団体貸出）サービスを提供していることを評価します。2021年度の数値は、貸出学校数が39校（指標①）のうち28校、貸出冊数が4,220冊（指標②）のうち2,535冊にとどまりました。貸出学校数、貸出冊数、共に伸び悩みの傾向が見られます。学校現場では、タブレット端末の活用が始まり、各教科や総合的な学習の時間における調べ学習は、インターネットによるものが主流になっています。そのことを支援貸出や団体貸出の伸び悩みの原因と結びつけて考えていく必要があります。

・学校図書館研修会には、図書館担当の教員や学校に配置されている図書指導員が、自校の図書館の利活用の推進や自己研鑽のために参加しています。選書の方法などの基本的なことから、読み聞かせの仕方や利用実績の活用の仕方、利用しやすく魅力ある展示の工夫など、公共図書館のノウハウを学べる場として貴重なものであり、学びの機会を提供していることを評価します。

【関連事項提言等】

・学校図書館の学校支援（支援貸出・団体貸出）サービスの提供については、今後、図書資料を利用した学習とインターネットを利用した学習の両者の利便性を活かしつつ、選択して利用できるようにしていくことが必要になります。もしくは併用して利用するなど、多様な利用の仕方に柔軟に対応できる環境を整えていくことも考えたいです。また、学校現場で若い教員が増え、支援貸出の仕組みを利用したことがない教員も増えています。支援貸出や団体貸出について、サービス内容の更なる周知を期待します。

■取組2-5 生涯学習施設の利用促進	文化財係・自由民権資料館・生涯学習センター・図書館・文学館
--------------------	-------------------------------

事業概要	より多くの市民に生涯学習施設を知ってもらい、幅広い世代の利用につながるよう、リーフレットやホームページ、SNSを利用した情報発信のほか、各施設の相互PRをはじめ、市内外の各機関と連携したPR活動を進めます。			
これまでの取組	リーフレットやホームページ、SNSを利用した情報発信を行っています。			
活動指標	指標	現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	①連携して行うPR活動件数	4件	10件	
	②SNS発信数	219回	800回	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	新たな連携先の検討・調整	新たな連携先とのPR活動の実施	検証	検証結果に基づくPR活動の見直しと実施
	SNSを利用した情報発信			
年度目標（指標①）	5件	6件	7件	8件
年度目標（指標②）	520回	610回	670回	720回
				10件
				800回

<2021年度の事業実績>

実績値（指標①）	A 計画以上に目標を達成した
取組状況（指標①）	各施設等において、下記のとおり合計21件の連携PR活動を実施しました。 ・文化財係：文学館、堺市民センターでの出張展示解説（2件）。 ・自由民権資料館：中央図書館での特集コーナー設置（1件）。 ・生涯学習センター：考古資料室と連携によるHP掲載動画の作成、民間HPへの講座情報掲載、人権週間での事業PR、中央図書館での特集コーナー設置、地区協議会と連携しての講座実施、市民センター等でのなんでもスマホ相談室の実施（7件） ・図書館：3R推進課のスケルトンごみ収集車と移動図書館の合同訪問、移動図書館車の保育園、幼稚園、子どもクラブへの出張訪問、移動図書館車の町田シバヒロや大地沢青少年センターでのイベント参加、さがまち学生Clubとの協働による移動図書館のPR動画作成（6件） ・文学館：広報課との連携による「『ポケふた』ミニ展示」、「のりものえほん展」における交通事業推進課との連携によるバスの絵展示及び商店会との連携によるジオラマ展示、町田モディでの出張展示、「ことばらんどショートショートコンクール」における小中学校への出張授業（5件）
実績値（指標②）	A 計画以上に目標を達成した
取組状況（指標②）	・各施設等において、施設の開館情報や講座・展覧会・イベント情報など合計2,392件のSNSによる発信を実施しました。 ・文学館ではTwitterで短歌作品の募集を行うなど情報発信に留まらないSNSの新たな活用に取り組みました。
課題	・各種イベントのターゲットそれぞれに効果的なSNSの研究と、発信内容や回数についてさらなる改善が必要です。 ・より多くのフォロワー及び「いいね」やリツイートで表現される反応を獲得できるよう、効果的なツイートの発信内容を検討する必要があります。
今後の取組の方向性	・幅広い世代の利用につながるよう、リーフレットやHP、SNSを利用した情報発信のほか、各施設の相互PRをはじめ、連携施設とのPR活動を検討していきます。 ・動画の活用等、中高生にも親しまれるコンテンツの提供を検討します。 ・HP、Twitterに加え、Instagramの効果的な活用を進めていきます。 ・町田デジタルミュージアムと連携し、発信力を強化します。

<外部評価>

外部評価者の コメント	【評価】 指標① 生涯学習施設の利用促進の取組の手段として、移動図書館の活用はかなり有効です。前年度よりもさらにいろいろなところに派遣し、本の貸し出し、おはなし会、PR活動などができたことは大変評価します。 指標② 移動図書館のPR動画は、確認したところ1,461回の再生回数でした。Twitterの発信数は、前年度の95回より少し増えただけですが、フォロワー数が大きく増加したことは評価できます。 【関連事項提言等】 ・移動図書館は、貸出だけでなく、コミュニティ形成の場でもあることから、図書館に行けない人に、図書館サービスを提供するという本来の目的と、この項の取り組みとを、並列して実施できるように、移動図書館車の台数を充実し、機能強化することを期待します。 ・動画をTwitter、InstagramなどでPRし、さらに視聴してもらうような工夫も必要です。Twitterの発信回数を増やすとともに、昨年度、今後の取組の方向性に挙げてあった、若い人向けへのInstagram導入などにもぜひ取り組んでください。
----------------	---

■取組2-6 読書普及事業の充実	図書館
------------------	-----

事業概要	インターネットやスマートフォンの普及により、読書量が減っていると言われてい ます。小学生以下の子どもの読書のきっかけとなる事業や、中高生を対象とした図 書館に足を運ぶきっかけとなるイベントを行うなど、18歳以下へ向けた取組を強化 します。				
これまでの取組	小学1年生を対象に「としょかんいちねんせい*」を実施しました。小学校高学年、 中学生、高校生を対象にPOP（本の紹介カード）を応募する「まちだライブ・ラ リー」を実施しました。				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	18歳以下の方の利用登録 につながる事業数		2事業	4事業	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	事業の 実施・ 検討	3事業実施		4事業実施	
			事業内容 の検証		事業内容 の検証
年度目標	2事業	3事業	3事業	4事業	4事業

*としょかんいちねんせい：公立小学校の新1年生に引換券（兼・利用登録用紙）を配布し、図書館・
文学館に引換券を持参した児童にカードケースを贈る事業。

<2021年度の事業実績>

達成状況	A 計画以上に目標を達成した
取組状況	以下の8事業を実施しました。 ・「としょかん1ねんせい」事業では、図書館に登録・更新した505名へミニプレ ゼントを渡しました。 ・小学生から高校生までを対象に、文学館と共催で「ことばらんどショートショ ートコンクール」を開催し、939名の応募がありました。関連イベントとして中央図 書館で「絵本づくりワークショップ」を開催し、4名の参加がありました。 ・子どもが本に親しむための取り組みのひとつとして、5、6歳から小学校低学年 を対象とした「読書手帳」を配布しました。 ・「小学生向け講座～ちょっぴり図書館員になってみよう!」を実施し、13名の参 加がありました。 ・YA世代*を対象に、一日図書館員を実施し、4日間で延べ13名の参加がありまし た。 ・青少年映画会「Yシネマ」を実施し、観客数は18名でしたが、対象年齢層は2名 でした。 ・YA世代を対象に謎解きレファレンス講座「まちクエ2021*」を実施し、4名の 参加がありました。 ・中央図書館で、土日祝日に中高生向けグループ学習室「わいわいキャレル」を実 施しました。103日間で165組の利用がありました。
課題	・中高生のイベント等への参加者数が伸びない事業に関して、開催方式や効果的な PR方法について検討する必要があります。
今後の取組の 方向性	・図書館利用の少ない中高生のニーズを把握するため、「町田創造プロジェクト （MSP）」メンバーや子どもセンターの運営委員、読書活動に積極的に取り組む 学校、さがまちコンソーシアム（さがまち学生C1ub）などと意見交換を行う機 会をつくり、中高生が図書館事業に参加できる仕組みについて引き続き検討しま す。

*YA世代：ヤングアダルト世代の略で、中学生から大学生ぐらいの年齢層を想定。

*まちクエ2021：まちだクエストの略。謎解きゲームを通じ図書館内を巡ることで、図書館の基本的
な構造や、本を借りるだけではない図書館の便利な使い方を体感してもらうイベント。

<外部評価>

外部評価者の コメント

【評価】

・コロナ禍で利用者を集めてイベントを開催することが難しい中、子ども達への読書の普及、YA世代に向けての取り組みを、前年度と比較して3事業増やしたことは評価できます。

・文学館と共催の「ことばらんどショートショートコンクール」は、多数の応募があるようにニーズの高いイベントです。受賞作品の展示や冊子の作成、小中高への配布、表彰式の実施、ホームページへの詳細な報告などは、参加意欲を高め、次回へつながる取り組みでした。高く評価できます。関連事業の絵本作りでは同様の取り組みが無かったのが残念です。ボランティアとして町田創造プロジェクト

(MSP)のYA世代が参加したことは意義があります。今後の連携も期待します。

・「小学生向け講座～ちょっぴり図書館員になってみよう!」、「中央図書館一日図書館員」は、定員を超える応募があるなど期待の高いイベントです。今後、回数を増やすことも検討してください。

・「Yシネマ」の告知は丁寧に行われていると思うのですが、参加者は定員を下回りました。また、対象年齢の参加者は2名でした。これでは本来の意義を果たしていないと考えます。結果を検証し次回に活かせる取り組みを検討してください。

・「まちクエ」は、期間、申し込み方法、対象年齢を絞り込んだために、参加者が大幅に減ったと推察されます。しかし、参加者の満足度が高いことから内容は評価できます。今後の取組については、告知も含めて、MSP、子どもセンター運営委員等中高生と意見交換し、YA世代が参加したくなるようなものになるよう検討してください。

・「わいわいキャレル」は前年度と同様の利用率でした。中高生により定着するようPRのあり方を検討してください。また、席数を増やす、音が影響しないようにする、など気兼ねない環境づくりが必要と強く感じます。

【関連事項提言等】

・市内の中高生による「まちだっこ 図書館未来プロジェクト(仮)」のような討論できる場を設定したり、各学校の図書委員(委員長)による会合を開催したりするなど、子どもたちの率直な意見交換を行う場を設定してはどうでしょうか。

■取組2-7 シニア世代向け事業の充実	図書館
---------------------	-----

事業概要	いつでもだれでも気軽に利用できるという図書館の強みを活かし、地域の図書館で認知症予防の講座を市民と協働して実施するなど、シニア世代が住み慣れた地域でいきいきと健康に暮らしていくための取組を行います。				
これまでの取組	未実施				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	シニア世代を対象とした事業数		未実施	2事業	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	実施検討	1事業実施		2事業実施	
			事業内容の検証		事業内容の検証
年度目標	実施検討	1事業	1事業	2事業	2事業

<2021年度の事業実績>

達成状況	A 計画以上に目標を達成した
取組状況	以下の3事業を実施しました。 ・ことぶき大学まちだ探・探ゼミナールにおいて、講座「図書館を活用した調べ学習」「著作権/出典・引用の扱い」を中央図書館にて実施しました（生涯学習センターとの共催）。 ・さるびあ、鶴川駅前、鶴川、木曽山崎、堺の各図書館及び移動図書館にて、シニア世代向け特集や認知症関連図書の特集展示等を行いました。 ・デジタルデバインド（情報格差）の解消に向けた講習会「はじめてのスマホ体験」を中央図書館で3回実施し、42名の参加がありました。
課題	・シニア世代向けの特集展示について、引続き各図書館で実施していく必要があります。 ・デジタルデバインド講習会は申込受付開始後1時間弱で定員に達するなど、市民の大きな期待が感じられたため、今後も継続していく必要があります。
今後の取組の方向性	・特集展示について、終了後でも特集資料を知ることができるようにします。 ・デジタルデバインド講習会について、中央図書館での継続実施に加え、他の地域での展開や参加人数の拡大などを検討します。

<外部評価>

外部評価者の コメント

【評価】

・「ことぶき大学まちだ探・探ゼミナール」は、高齢者の方に、図書館を活用していただくよい取り組みだと評価できます。レファレンスや豊富な資料があること、多様な利用の仕方を知ることができることなどから、図書館の利用増につながります。知的探求という視点で、高齢者の「お一人様」を作らない取り組みこそ、公共図書館が担える大きな役割と考えます。シニア世代のニーズを把握するなど、更なる取り組みを期待します。

・前年度、課題に挙げていた「デジタルデバインド」に向けての講習会を開催されたことは高く評価できます。「はじめてのスマホ体験」がすぐに定員に達したことは、誰でも利用しやすい図書館が行うことにより、ニーズに応えられた結果だと推察できます。自宅にいながらサービスを利用できる利便性は、シニアにとって欠くことのできないものです。今後、回数や開催場所を増やす等、更なる拡大を期待します。

・「Dボックス」（町田市内で取り組んでいる、本を通して認知症に関する情報を得やすい環境をつくる事業）は当事者家族だけでなく、若い世代やこれから介護に直面する家族に向けてアピールすることも必要です。そのことも意識した特集展示を期待します。また、認知症カフェ「Dカフェ」のお知らせやコラボも検討してください。

【関連事項提言等】

・木曽山崎図書館は、開館当初から、乳幼児対象のおはなし会や紙芝居に積極的に取り組み、一定の評価をあげてきました。しかし、開館から50年近く経ち、近隣の大型2団地の住民の高齢化が著しく、図書館を取り巻く環境も様変わりしてきています。シニアが真に利用しやすい図書館になるように、アンケートを実施するなどして、ニーズ調査を行ってはどうか。

■取組2-8 障がい者サービスの充実	図書館
--------------------	-----

事業概要	通常の活字による読書が困難な人の学びのきっかけとなるよう、マルチメディアDAISY（デージー）*の貸出を拡充するなど、より対象者を広げた障がい者サービスを行います。				
これまでの取組	視覚障がいなどで活字を読むことが困難な人、寝たきりなどで図書館への来館が困難な人へのサービスを行っています。さらに、視野狭窄などにより読書が困難な人を対象に、リーディングトラッカー（読書補助具）の貸出を実施しています。				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	通常の活字による読書が困難な人を対象とした事業数		1事業	3事業	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	事業の実施・検討	2事業実施		3事業実施	
			事業内容の検証		事業内容の検証
年度目標	1事業	2事業	2事業	3事業	3事業

*マルチメディアDAISY（デージー）：音声と一緒に、文字や絵、写真などを見ることができるパソコンで読む本のこと。

<2021年度の事業実績>

達成状況	B 目標を達成した
取組状況	・マルチメディアDAISYについて、上映会を開催し、会場でのミニ展示と共にPRを行ったり、若手教員育成研修で資料の紹介と、学校図書館支援貸出でも利用できることを案内しました。 ・2022年3月にボランティア養成講座「テキストDAISY*実習講座」を開催し、テキストDAISY製作を学ぶ機会を設けました。 ・リーディングトラッカーの貸出を含め、実施した事業の合計は3事業となりました。 ・中央図書館特集コーナーで、点字絵本やLLブック、マルチメディアDAISYなど、通常の読書が困難な人も利用できる資料の展示やサービスのPRを行いました。 ・新型コロナウイルス感染症対策として、日程や場所の調整を行いながら対面朗読を実施しました。また、宅配サービス、音訳・点訳サービスも、ボランティアの協力のもと実施しました。
課題	・マルチメディアDAISYをはじめ、障がい者サービスの利用促進に向けて、更なる取り組みを進める必要があります。 ・サービスの大きな部分を担うボランティアの高齢化・減少に対応する必要があります。
今後の取組の方向性	・展示等を通じて障がい者サービスをPRし、新規利用を促進します。 ・関連団体等とも協力して、ボランティア養成を進めます。

*テキストDAISY：音声データの入っていないパソコンで読む本のこと。再生機等の音声合成機能でテキストを読み上げさせて聞くことができる。

<外部評価>

外部評価者の コメント

【評価】

・前年度、今後の取組の方向性に記載されていた特集展示に取り組んだこと、マルチメディアDAISY上映会を開催したこと、ボランティア養成講座を開催したことなど、計画的に取り組む、PRされたことは評価できます。中央図書館以外の各館でも同様に取り組むとともに、多くの人に周知されるような取り組みを期待します。

・現在あるマルチメディアDAISYはすべて寄贈分であり、自館で製作されたものはありません。今回「テキストDAISY実習講座」を登録ボランティア対象に開催したことは、一歩前進と評価できます。しかし、機材が高価で入手が厳しい状況であるなら、図書館で購入し貸出すなど、ボランティアが製作しやすい環境の構築も必要ではないでしょうか。このことはサービスの拡充が期待できるので、ぜひ検討をお願いします。

また、若手教員研修におけるマルチメディアDAISYの紹介は、継続事業のひとつになっていますが、利用される学校や所蔵点数は横ばいです。マルチメディアDAISYの目録ができ、また手に取って内容が分かるようになり、地道な取り組みが利用アップにつながっていくとよい思います。

・体の不自由な方や一人暮らしの方への宅配件数が増えています（1,599→2,006点）。新型コロナウイルス感染症の収束の見込みがつかない中、より一層宅配の必要性を感じます。更なるサービスの拡充を期待します。今は、視覚・聴覚・体の不自由な方へのサービスが中心のようですが、精神・発達障害の方へのサービスも是非検討して下さい。（施設への訪問サービス等）

・今後の取組の方向性として「障がい者サービスをPRし」とあるとおり、奉仕ルーム前のポップは整理されて内容も充実しています。サピエ図書館の利用方法やアクセス等も分かりやすくなっています。こうした取り組みへ姿勢は評価できます。

・「障がい者」といっても、その状況はさまざまであり、その様々な障がいに対応した、図書館ならではの企画を立案して、計画的に取り組んでいくことが求められるのではないのでしょうか。車いすを利用する人、聴覚や視覚に困難さを感じている人など、どんな特性にも対応できる施設・設備を備えた図書館にして、図書館に行ってみようという気持ちを起こさせたいものです。

【関連事項提言等】

・シニア向けの「スマホ教室」が好評ですが、障がい者向けのスマホ教室の開催も検討してはいかがでしょうか？視覚障がい者にとってスマホは目の代わりとなる機器の一つであり、一般のスマホ教室では対応が難しいとも聞きます。SeeingAI（**視覚に障がいのある人に向けたアプリで、カメラにうつった印刷された文字を読み上げたり、周りの風景や人を音声で教えてくれる**）の活用も情報を取得するうえで役立つツールのひとつとなります。

■取組2-9 図書館資料による情報提供機会の充実	図書館
--------------------------	-----

事業概要	町田市の施策や町田市の魅力をより多くの市民にPRするために、図書資料の展示方法やPRを改善しながら、「本の特集コーナー」による情報提供機会の充実を図ります。				
これまでの取組	2015年度から町田市の施策をPRするための「本の特集コーナー」を市の各部署と連携して行っています。市の施策を市民に役立ててもらうとともに、図書館利用者を増やす取り組みのひとつとなっています。				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	他部署や他機関と連携した「本の特集コーナー」の実施数		19回	33回	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	改善点の洗い出し	改善案の実施	改善点の洗い出し	改善案の実施	改善点の洗い出し
年度目標	19回	26回	26回	33回	33回

<2021年度の事業実績>

達成状況	A 計画以上に目標を達成した
取組状況	・他部署や他機関と連携した「本の特集コーナー」を50回実施しました（中央図書館21回、さるびあ図書館2回、金森図書館3回、木曽山崎図書館1回、堺図書館1回、忠生図書館3回、鶴川駅前図書館19回）。 ・オリンピックの開催に伴い、全館共通テーマで連動した特集コーナーなどの実施を行いました。 ・「本の特集コーナー」で紹介した図書をリスト化しホームページで公開しました。 ・「本の特集コーナー」に関連するCDを設置するなど、新しい取り組みを行いました。
課題	・他部署と連携したイベントの開催など、更なる相乗効果を生み出すような連携を模索する必要があります。 ・他部署のSNSによる特集コーナーの周知など、より多くの方に特集コーナーを知ってもらう方法を考える必要があります。
今後の取組の方向性	・他部署と連携したイベントの開催など更なる相乗効果を生み出すような連携を引き続き検討します。 ・他部署のSNSによる特集コーナーの周知など、より多くの方に特集コーナーを知ってもらう方法について検討します。

<外部評価>

外部評価者の
コメント

【評価】

- ・取組状況として、中央図書館では前年度にも増して、いろいろな部署や他機関と連携して興味深い特集を組んだことは良かったです。
- ・鶴川駅前図書館では、地区協議会のイベントを中心に、ポプリホールや和光大学のゼミと協力しての特集コーナー設置も見られました。今後、指定管理者制度下においても同様の連携を望みます。

【関連事項提言等】

- ・課題と今後の取組の方向性にあるように、せっかくの特集をさらに周知する方法を検討してください。
- ・図書館のホームページにはあまり地域館の情報が載りませんが、ホームページは各館の情報発信の場でもあります。本の特集コーナーを含めて、ITを活用するなどして、もっと地域館の情報を載せるよう努力してください。

■取組3-8 レファレンスサービスの充実	図書館
----------------------	-----

事業概要	市民の調査・研究を援助するレファレンスは、市民一人一人の学びを深めることができる重要なサービスです。求める資料を見つけることができるように、レファレンスサービスの充実に向けて技術の向上を図ります。さらに、レファレンス事例の公開や、インターネット情報にアクセスできる環境を整備します。				
これまでの取組	レファレンス事例をデータ化し、インターネットで公開しました。基本的な資料を案内する「パスファインダー」を作成しました。調べ物に役立つ情報をまとめた「レファレンス通信」を発行しました。				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	レファレンス事例の公開件数		162件	250件	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	レファレンス事例の公開				
	レファレンス事例の点検と今後の改善方法の検討		レファレンス技術の向上のための改善プラン実施		事例の公開の振り返り
年度目標	190件	205件	220件	235件	250件

<2021年度の事業実績>

達成状況	B 目標を達成した
取組状況	- レファレンス事例をインターネットで24件公開し、公開件数は延べ258件になりました。 - 国立国会図書館が全国の図書館等と協同で構築している「レファレンス協同データベース」にレファレンス事例を23件公開しました。 - レファレンス事例や資料を紹介する「レファレンス通信」を2回発行しました。 - 職員の技術力向上のため、レファレンスカウンターに入る職員についての研修内容について見直しました。
課題	- レファレンス事例については、利用者の調べ物に役立つよう、引き続き幅広い分野について公開していく必要があります。特に町田の地域資料に関する事例の充実が必要です。 - レファレンスサービスを気軽に利用してもらえるような工夫が必要です。 「パスファインダー」については、最新の情報を提供するため定期的に改訂する必要があります。 - レファレンスサービスの充実には、職員の技術力向上が欠かせず、人材育成が必要です。
今後の取組の方向性	- 引き続き、町田の地域資料を中心とした幅広い分野について、レファレンス事例を公開していきます。 「レファレンス通信」やイベント等を通じて、利用者に気軽に利用してもらえるような工夫を行います。 「パスファインダー」の改訂を行います。 - レファレンス技術向上のため、都立図書館等の研修に積極的に参加します。

<外部評価>

外部評価者の コメント

【評価】

- ・2021年度も丁寧に取り組まれていることは評価できます。しかし、2020年度の「課題、今後の取組の方向性」が、反映されているのかが取組状況からは読みとれません。現状維持が目標ではなく、さらなる利用拡大を目指し、目標の見直し、検討の工夫が必要と感ずます。

- ・活動指標に準じて活動していったことは評価できますが、市民が求めている情報に対して、最新のものを提供し、又それを適正に提供できているかが重要です。職員の技術向上をどのように図っていくかが課題になるように思われます。レファレンスサービスを提供する前提として、図書館が情報収集センター的な役割を果たすことが必要です。今は、なんでもインターネットで検索してしまいがちですが、図書館に行って情報を集めたいと思えるようなことができるか、図書館がそういう場所となりえるかが大切であろうと考えます。

- ・「レファレンス通信」の発行が、2021年度は2回に増えていることは評価できますが、発行回数、内容等計画的に行うことが必要と思われる。「通信」を発行する意義や、レファレンスそのもののPRになっているのか等、検討の必要もあるのではないのでしょうか。

- ・「レファレンス通信」は、レファレンスサービスの内容を伝えるパンフレットですので、できるだけ多くの事例を取り上げた方が効果的ではないのでしょうか。インターネットで公開されている事例は、専門性の高いものより身近な疑問や質問が多く、回答も2種類以上の資料から分かりやすくされています。どんな質問でもよいと思わせる内容の紹介・利用者の声などの工夫をすると有効だと思います。「新着資料」は別に「新着図書案内」のパンフレットがあります。統合できるのではないのでしょうか。

- ・レファレンス事例の公開件数も258件と増加していることは評価できます。「ことぶき大学まちだ探・探ゼミナール」の「図書館を活用した調べ学習」のアンケートでは、4人が知っているが利用したことがないと、また、半数の6人がレファレンスサービスを知らなかったと回答しています。課題として取り上げている「レファレンス機能を広く周知する必要があります」とあるようにPRの必要性を強く感じました。

「ことぶき大学まちだ探・探ゼミナール」やYA世代の「まちクエ」等は、知的探求に大きな役割を担う事業です。引き続き連携し、レファレンスの利用拡大に向けての取組みを期待します。

■取組4-3 地域で活動するボランティアの養成・支援【◇】	図書館
-------------------------------	-----

事業概要	おはなし会などの本にかかわる活動がより活発に行われるよう、地域や学校で活動するボランティアを養成するとともに、ボランティアが行うおはなし会の開催を支援します。				
これまでの取組	各図書館でのおはなし会については、ボランティア入門講座を行っておはなし会の担い手を育成し、職員とボランティアが協力して、おはなし会を実施しています。				
活動指標	指標	現状値（2017年度）	目標値（2023年度）		
	①地域で活動するボランティア向け講座の開催回数	1回	3回		
	②地域で活動するボランティア向け講座への参加者数	26人	90人		
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	ボランティア向け講座の実施、内容の検証・改善				
	新たな支援方法の検討 新たな支援の実施				
年度目標（指標①）	1回	1回	2回	2回	3回
年度目標（指標②）	30人	30人	60人	60人	90人

<2021年度の事業実績>

達成状況（指標①）	B 目標を達成した
取組状況（指標①）	・地域で活動するボランティア向けの講座を12回開催しました。また、ボランティアの活動の継続に必要なモチベーションや技術の向上を支援することができました。 ・新型コロナウイルス感染症の影響で、おはなし会については感染症対策をしつつ、回数を減らして開催しました。 ・十分に活動できなかったボランティアのフォローを目的に、特に活動歴の浅いボランティアを対象としたスキルアップ研修等を開催しました。 ・読み聞かせに関わる活動をしている保護者やボランティアの技術や意欲の向上のために、感染症対策を講じた上で読み聞かせ講座等を開催しました。
達成状況（指標②）	B 目標を達成した
取組状況（指標②）	・地域で活動するボランティア向けの講座の参加者数は94人でした。
課題	・新型コロナウイルスの影響もあり、各図書館ごとに単独で講座を行う形になりました。町田市の図書館として、年間を通じてどの館で、どのような内容で講座等を行うのかを設定することが必要と考えます。
今後の取組の方向性	・各図書館の担当者で打合せを行い、図書館として全館でどのように実施するのが有効か検討します。 ・実践編を行うことができる図書館を増やすことを検討します。 ・ボランティアの新たな活躍の場について、要望に応じた支援ができるよう、事業の具体化に向けて検討を進めます。

<外部評価>

外部評価者の
コメント

【評価】

・活動指標に挙げているボランティア向け講座の開催回数及び講座への参加者数については、いずれも目標値よりかなり高く、新型コロナウイルス感染症対策を講じながら丁寧な取り組みをしたことが評価できます。また、目標値を上回り、ニーズの高さがうかがえます。継続に必要なスキルアップ講座を行うなど、積極的な取り組みを高く評価します。

・課題にも記載されていますが、講座を含むボランティア養成・支援については、系統的に考えて計画を立てる必要があります。また、それを平準化し、各館のばらつきがないようにすることを検討してほしいです。おはなし会にたずさわる人材の高齢化と、若い担い手がなかなか育たないところも課題です。地域人材をいかに発掘し、育成していくかがカギになると思います。

・課題に挙げてある図書館としての講座のあり方については、市内図書館相互の連携と、企画運営力を高めること、ボランティア登録して地域で活動できるような人材バンクを作っていくことなども大切であると考えます。この事業は、地域との連携を活発化しやすい取り組みです。実践できる人材が増えている点、その先の活躍の場についての視点を持って取り組もうとしている点は評価できます。

・ある小学校でのことですが、地域で読み聞かせをしていた方が高齢化して、読み聞かせを継続できなくなりました。今後は、本に親しむ若年層にも声をかけ、おはなし会への参加を募り、また養成講座などを通じて輪を広げられるよう取り組みに期待します。

■取組4-7 図書館運営の地域協働化の促進	図書館
-----------------------	-----

事業概要	市民の学習を支える図書館活動を市民参画・協働でこれまで以上に進めることができるよう、図書館で活躍するボランティアの活動分野を拡げていきます。				
これまでの取組	児童サービスの「おはなし会ボランティア」、障がい者サービスの「宅配ボランティア」・「音訳ボランティア」・「点訳ボランティア」・「対面朗読ボランティア」で市民ボランティアが活動しています。				
活動指標	指標			現状値（2017年度）	目標値（2023年度）
	ボランティア活動分野の拡大			5分野	7分野
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	5分野	6分野		7分野	
	拡大に向けた検討				
年度目標	5分野	6分野	6分野	7分野	7分野

<2021年度の事業実績>

達成状況	B 目標を達成した
取組状況	- 以下の6分野でボランティアの活動がありました。 ①「おはなし会ボランティア」 小学生・幼児向け：51回、乳幼児向け：31回開催 ②「宅配ボランティア」 宅配件数：396件 ③「音訳ボランティア」 音訳資料製作タイトル数：58点 ④「点訳ボランティア」 点訳資料製作タイトル数：14点 ⑤「対面朗読ボランティア」 対面朗読件数：212件 ⑥「イベントボランティア」：1回開催 - MSP(町田創造プロジェクト)や図書館実習生からボランティアの活動分野についてヒアリングを行いました。 - おはなし会や障がい者向けサービス以外の分野でボランティア活動を支援している図書館について研究を行いました。 8月に中央図書館で子ども向けイベント「絵本づくりワークショップ」を行い、イベント当日のボランティアとしてMSP(町田創造プロジェクト)から2人が参加し、子どもたちが絵本作成するときのフォローを行っていただきました。
課題	- ボランティアが気軽に自分の個性を生かした内容で参加出来る環境や研修等について検討します。 - 図書館側が役務の分担を期待するようなボランティアだけではなく、イベントの企画など市民が主体的に参画できるようなボランティアを検討する必要があります。
今後の取組の方向性	- ボランティア活動への準備を行ったうえで、イベント補助やイベント企画・運営等の図書館を盛り上げるといった新しい活動分野を開拓します。 - イベントの企画など市民が主体的に参画できるようなボランティアについて検討します。

<外部評価>

外部評価者の コメント

【評価】

- ・「事業概要」に書かれている「市民の学習を支える図書館活動を市民参画・協働でこれまで以上に進めることができるよう、図書館で活躍するボランティアの活動分野を拡げていく」ということは望ましいです。図書館活動を市民参画・協働で進めることは大いに評価できます。
- ・取組状況として、従来のボランティアに加えて、イベントボランティアとして若い人が参画したのはとても喜ばしいことです。今後も積極的に若い人たちに働きかけてください。

【関連事項提言等】

- ・活動指標にあるようなボランティアの活動分野の拡大(5分野から7分野へ)というだけでは図書館活動を市民参画・協働で行うには足りません。図書館活動をより豊かにするよう、企画を募るなどがさらに必要です。
- ・図書館運営と図書館活動とは大きく内容が異なります。樹木にたとえるなら、枝葉や花は市民協働で大いに豊かにできますが、図書館の幹である運営については、あくまでも市が責任をもって行うべきです。また、指定管理者の場合も同様です。前年度評価にも書きましたが、「図書館運営の地域協働化の促進」という取組テーマと、事業概要・活動指標などの図書館運営とは大きな隔たりがあると考えます。
- ・課題・今後の取組の方向性にあるように、市民活動の一環として、イベントの企画など市民が主体的に参画できるよう取り組むことを期待します。

■取組5-2 本と出会う場所の創出【◇】	図書館
----------------------	-----

事業概要	町田市には大学図書館や地域文庫、まちライブラリー*など本に触れることができる施設が各地域にあります。これらの施設と図書館が連携して読書活動を推進する取組を進めるとともに、これらの施設の情報を集約した読書マップを作成します。				
これまでの取組	市民が利用可能な大学図書館やおはなし会を実施している団体の情報を収集し、図書館ホームページに掲載しています。				
活動指標	指標	現状値（2017年度）	目標値（2023年度）		
	①読書活動推進にかかる連携施設数	20か所	25か所		
	②読書マップの作成	未実施	作成・公開（2020年度）		
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	図書の貸出・閲覧やおはなし会がある市民利用施設との連携推進				
	本に触れることができる施設の把握	マップの作成・公開		マップの更新	
年度目標（指標①）	21か所	22か所	23か所	24か所	25か所
年度目標（指標②）	施設の把握	作成・公開	検証	更新	検証

*まちライブラリー：47ページのコラム「まちライブラリーとは？」を参照。

＜2021年度の事業実績＞

達成状況（指標①）	B 目標を達成した
取組状況（指標①）	・新たに開設した本と触れ合う施設を訪問し、読書マップの趣旨に賛同していただき、掲載許可をもらいました。 ・これらの取組の結果、読書活動推進にかかる連携施設数は1施設増加し25施設となりました。 ・1冊の絵本を人から人へと旅をさせることで、絵本でつながる新しい地域コミュニティを創造することを目的とした、「まちだ旅する絵本」に協力し、中央図書館での展示とイベントを実施しました。また、大地沢青少年センターへ移動図書館を出張運行し、資料の貸出・閲覧やおはなし会を実施しました。これらの連携した取り組みを実施することで、普段図書館を利用されない方へも本と触れ合う場所の創出をしました。
達成状況（指標②）	B 目標を達成した
取組状況（指標②）	・掲載施設からの依頼に基づき、読書マップHPの内容を更新しました。 ・2022年度に予定している読書マップの更新に向け、想定される掲載箇所数や掲載内容、レイアウトについて検討しました。
課題	・読書活動を推進している連携施設や読書普及活動に取り組んでいる個人や団体と協力した取り組みについて、継続して検討する必要があります。 ・読書マップの内容を充実させるため、継続して情報を収集して増やしていく必要があります。
今後の取組の方向性	・読書活動を推進している連携施設や読書普及活動に取り組んでいる個人や団体と連携したイベント等について幅広く検討します。 ・市民に広く情報を求め、改定版の読書マップを作成します。

<外部評価>

外部評価者の コメント	【評価】 ・本に触れあうことのできる場所を一覧で見ることができるのはとてもよいことです。今後も継続して情報を収集し、大人にも子どもにも役立つ最新のマップ作成を期待します。 【関連事項提言等】 ・マップについては、図書館ホームページに掲載されていますが、トップページからはすぐに見つからないのが残念です。「図書館で行っているイベント・作成資料など」をクリックすると、「町田市読書マップ」のバナーが見つかりますが、これでは利用者の目には付きにくいです。 ・トップページに「読書マップ」の言葉を載せるなど、もう少し見つけやすくすべきです。 ・今後の工夫として、マップ自体をデジタル化し、それぞれの施設をWeb上の地図に埋め込み、それをクリックすると、その場所のサイトなどを見られるようにするとよいと思います。それにより、利便性が格段に向上しますし、マップ更新も簡単にできるようになります。今後の方向性としてぜひご検討ください。
------------------------	--

■取組5-5 図書館利用者の利便性の向上	図書館
----------------------	-----

事業概要	インターネットやスマートフォンの普及、書籍のデジタル化により市民の読書スタイルは多様化しています。図書館に来館しなくても市民が読書をする機会が増えるよう、電子書籍の導入を目指します。				
これまでの取組	未実施				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	電子書籍サービスの導入		未実施	実施	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	先進事例の研究調査・ 補助金の調査・ 民間活力手法導入検討		導入のための仕様作成と 実施に向けた準備		実施
年度目標	調査	検討	仕様作成	実施準備	実施

<2021年度の事業実績>

達成状況	C おおむね目標を達成した
取組状況	- 電子書籍サービス提供を柱とするデジタルデバйд解消事業が東京都の「子供・長寿・居場所区市町村包括補助事業」の補助金交付対象となりました。 - 電子書籍サービスの導入に向け、先行自治体の導入事例の調査を行いました。 - 電子書籍サービスの仕様作成に向け、調査を行いました。
課題	- 電子書籍サービスの早期導入に向け、仕様を完成させる必要があります。 - 電子書籍サービス導入による新規利用者に加え、従来の利用者にも支持されるような蔵書の構築や、PR事業の実施をする必要があります。
今後の取組の方向性	- 電子書籍サービスの仕様を完成させます。 - 電子書籍サービスのターゲット層を想定し、利用したくなるコンテンツ構成となるような収集方針の作成と、具体的な購入の検討を行います。 - 電子書籍サービスが多くの市民の暮らしに有益である事をアピールする、PR事業の検討を行います。

<外部評価>

外部評価者の
コメント

【評価】

- ・取組2-7の事業と関連して、電子書籍サービスを含む事業が東京都の「子供・長寿・居場所区市町村包括補助事業」の補助金交付対象となったことを評価します。
- ・補助金に関する東京都の資料の一部では「高齢者に限らない新規利用者獲得のサービスを展開予定」と記載していると報告がありましたが、「2020年度 町田市立図書館 利用者アンケート」では電子書籍導入を希望する10代の数値も高いことから、偏りのないサービスの提供を希望します。

【関連事項提言等】

- ・地区協議会等で行われている「高齢者スマホ教室」の来場者の情報収集は、電子書籍サービスに関する有用なサービス構築に繋がるのではないかと推測します。
- ・電子書籍は新しい生活様式や外出することに困難を感じる層へもとても有用なサービスです。どの年齢層にとっても利用しやすい操作方法や、魅力あるラインナップ等の柔軟な視点でのサービス構築を希望します。そのためには市民の声が重要です。例えば「モデル事業」として実証実験のような取り組みを行うことで、市民へのアナウンス効果が期待できます。具体的には、学校での朝読書の時間に電子書籍を活用することなどは、導入として有効であると考えます。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響は少なくなってはきたものの、新しい生活様式として私たちの選択肢は以前より増えました。来館せずとも書物に触れる機会の提供は日々進化するデジタル社会に呼応するものであり、早期の整備を期待します。
- ・補助金交付によるデジタルデバйд解消事業は2年間です。2年後の事業終了を見越して、電子書籍を計画的に導入していくことを期待します。

■取組5-6 地域資料の活用の推進	図書館
-------------------	-----

事業概要	現在、紙の媒体で管理されている地域資料は、地域活動を行っていく上で重要な資料です。これらを積極的に活用できるよう、これまで蓄積してきた地域資料のデジタルアーカイブ*化を進めます。				
これまでの取組	未実施				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	地域資料のデジタルアーカイブ化の推進		未実施	実施	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	地域資料 活用のための 計画作成	デジタル化 対象資料の 整理	イメージデータの作成		段階的な 公開
年度目標	検討	整理	データ作成	データ作成	実施

*デジタルアーカイブ：電子図書館をはじめ、作品、文化財その他の情報をデジタル化して収集・保存・公開する活動や場の総称。

<2021年度の事業実績>

達成状況	D 目標に達しなかった
取組状況	・町田市立図書館での地域資料デジタルアーカイブ化の考え方をまとめました。 ・2020年度に公開済みの図書館作成資料の3点に追加する形として、中央図書館開館当時の資料「夢いっぱい」、「町田市立中央図書館」の2点を図書館ホームページに掲載しました。
課題	・デジタル化資料の公開方法について、他システムでの公開も含め検討する必要があります。 ・同様の資料を公開する他部署と公開する資料の範囲について調整する必要があります。 ・デジタル化資料に限らず地域資料が広く活用できることをPRし、デジタル化の必要性を周知する必要があります。
今後の取組の方向性	・デジタル化資料の公開方法を検討し、決定します。 ・他システムで同様の資料を公開する他部署と調整を行い、図書館が公開する資料の範囲を決定します。またリンクや紹介など、他システムの資料にも容易にアクセスできるよう検討します。 ・地域資料を利用したくなる、有用であることをPR出来るような事業の検討をします。

<外部評価>

外部評価者の コメント	【評価】 ・実施に向けた準備が遅れていることについて、改善が必要であると考えます。ただし、システムの導入、構築に向けて、着実かつ具体的に検討が行われていることは高く評価します。 ・町田市立図書館に関する資料が、ウェブサイトで新たに公開されたことを高く評価します。 【関連事項提言等】 ・次のような工夫がなされることで、情報にアクセスしやすく、また、情報が活用されやすい仕組みが作られることを期待します。 ・ジャパンサーチなどの横断検索システムと連携する。 ・他部局が公開するデジタル化資料も検索できるようにする。 ・URLの固定化、二次利用条件の緩和と明示など、活用されやすい形式で公開する。 ・学校での探究学習や各施設における講座等における活用を促す。
----------------	---

■取組5-7 市民のニーズに合った図書館事業の実施	図書館
---------------------------	-----

事業概要	図書館全館で利用者アンケート調査を実施し、図書館利用者のニーズを把握して、図書館サービスの改善に役立てます。				
これまでの取組	図書館全館での利用者アンケートを2009年度から3回実施しました。				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	図書館利用者アンケートの実施		未実施	実施	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	アンケート実施準備	アンケート実施と公表	事業の評価と改善		次期アンケート実施準備
年度目標	検討	実施	活用	活用	検討

<2021年度の事業実績>

達成状況	B 目標を達成した
取組状況	利用者アンケートの調査結果から、以下の市民ニーズが高いサービスの実施と準備を行いました。 ・3月から中央図書館でWi-Fiサービスの提供を東京都の補助金を利用して始めました。 ・2022年度から指定管理者制度を導入する鶴川駅前図書館の開館日時拡大やWi-Fiサービス提供、資料の消毒機設置のための準備を行いました。 ・2022年度から電子書籍サービスを提供する準備を行いました。
課題	・図書館利用者だけでなく、図書館を利用していない市民ニーズも把握することが必要です。 ・開館日時拡大やWi-Fiサービス提供、資料の消毒機設置は一部の図書館に導入するため、中央図書館や地域図書館へのサービス拡大についてはしっかり検証していく必要があります。
今後の取組の方向性	・図書館を利用していない市民ニーズを把握するため、無作為抽出による市民意識調査を実施していきます。 ・鶴川駅前図書館の指定管理者が毎年実施する利用者アンケートに併せて、図書館全体でも同様に利用者アンケートを実施します。

<外部評価>

外部評価者の コメント

【評価】

- ・2020年度の調査結果をもとに、東京都の補助金利用で市民の声を反映したWi-Fiサービスが導入実施されたことを高く評価します。
- ・電子書籍サービス準備に関する具体的な内容が明らかではないため、取り組み内容が分かりませんでした。
- ・指定管理制度導入により利用時間拡大やサービス内容充実等が迅速に進められている状況について、今後の図書館運営についての発展的な視点が組み込まれていることを評価します。
- ・「消毒機」設置への準備は社会情勢のニーズに添ったものであることを評価しますが、購入費等の詳細情報を求めます。
- ・市民ニーズを把握するための「無作為抽出での市民意識調査」実施は有用であると評価します。ただ、その方法には検討の余地があると考えます。

【関連事項提言等】

- ・電子書籍サービスについて、「2020年度 町田市立図書館 利用者アンケート」では「希望者が40代、50代が最も多い」という評価がされています。しかし、10代の数値も高いことから、偏りのないサービスを希望します。
- ・アンケートの公平性を担保する点から、郵送での取り組みが選択されていると思われます。しかし、オンラインでの回答を選択肢に入れることは、回答率アップに繋がると予想されます。今後の導入を期待します。

2023 年 1 月 11 日

町田市立図書館長

中嶋 真 様

町田市立図書館協議会委員長

松本 直樹

町田市立図書館の図書館外部評価に関する報告

1 はじめに

町田市立図書館協議会は、2022 年 7 月 20 日付文書「2021 年度図書館評価の外部評価について(依頼)」に基づき、「町田市の図書館評価」の外部評価機関として、2021 年度の評価を実施しました。以下、その経過並びに評価結果を報告します。

2 外部評価の実施方法・スケジュール

『町田市生涯学習推進計画 2019－2023』事業実績(2021 年度分)における図書館所管分、全 14 項目について、外部評価を実施しました。

(1) 方法

- ① 評価は全ての委員で担当する
- ② 全取組項目を 3 グループに分け、グループごとに複数の委員で評価案を作成する
- ③ 全委員で全項目の評価案の確認を行い、外部評価を確定する

(2) スケジュール

2022 年 7 月 20 日	第 19 期第 5 回定例会で図書館外部評価の依頼を受ける
2022 年 9 月 28 日	第 19 期第 6 回定例会後にグループに分かれて担当事業についての説明を受ける その後、10 月下旬までに、各自評価案を事務局に提出
2022 年 11 月 22 日	第 19 期第 7 回定例会後にグループに分かれて担当事業について評価案を協議 その後、12 月上旬までに、各自取りまとめ評価案を事務局に提出
2023 年 1 月 11 日	第 19 期第 8 回定例会で評価案の全体確認及び外部評価に関する報告の内容を確認
2023 年 2 月 14 日	第 19 期第 9 回定例会で外部評価の最終確認及び提出

3 外部評価の結果

『町田市生涯学習推進計画 2019－2023』事業実績(2021 年度分)における図書館所管分、全 14 項目について評価を実施し【評価】と【関連事項提言等】を記載しました。

4 全体に関わる評価と提言

(1) 全体に関わる評価

図書館による評価は全体として適切に行われていたと評価できます。事業の達成状況は、Aが6、Bが9、Cが1、Dが3でした(事業により複数指標あり)。2020年度は、Aが7、Bが7、Cが1、Dが4であったのと比較すると、大きな変化はありませんでした。2021年度は、依然として新型コロナウイルス感染症の影響を受けた中での運営でした。このことを考慮すれば、決して悪い達成状況ではないと考えます。

今後も新型コロナウイルス感染症の影響を一定程度、受けると考えますが、「ウィズコロナ」を見据えつつ、実施が難しかった事業にも積極的に取り組んでいくことを期待します。

(2) 外部評価実施全体に関わる提言

外部評価を実施した結果、全体に関わる事項として、以下を提言します。

1) 図書館予算、資料費の確保

図書館に関わる予算は運営、サービスに関わる根幹です。特に資料費は中核的サービスである貸出しを含め、図書館の活動全般に大きな影響を与えます。すでに、昨年度、一昨年度の「町田市立図書館の図書館外部評価に関する報告」の提言で、資料費、図書館予算の増加について指摘をしてきました。この背景には、以前と比較して資料費が大幅に減少していること、東京都全自治体の中で市民一人あたりの資料費が最低であること、があります。

残念ながら、今年度の資料費予算は45,684千円であり、依然として十分とはいえません。貸出点数も残念ながら大きく減少しています。せっかく、さまざまな事業を実施しても利用者が減少する中では、十分な効果を発揮しません。市には、図書館予算、資料費の十分な確保を改めて求めます。

2) 市民、利用者の声の反映

今回の評価結果では、市民の声を聞くこと、それをサービスに反映すること、市民から企画を募ること、市民が主体的に参加できるようにすること、など市民との協働について多く指摘されました。図書館協議会も市民の声を伝える一つの機関ではありますが、市民とのチャンネルを多様化するとともに、多くの市民と協働していくことは重要と考えます。このことは、これまでも図書館では取り組んできたことではありますが、より一層の取組を期待します。

3) 評価の活用・フィードバック

今回の評価結果中に、前年度の評価結果の反映が読み取れないとの指摘が一部にありました。図書館による自己評価や図書館協議会による評価は、多くの人がたくさんの時間をかけて行われています。せっかくの評価ですので、可能な限り事業に反映してもらいたいと考えます。同時に、フィードバックの情報もぜひ広く知らせてください。

5 結び

図書館協議会による 2021 年度図書館評価は、昨年度に続き『町田市生涯学習推進計画 2019-2023』の事業実績に基づいて行いました。図書館評価は、図書館協議会委員が図書館の事業を詳しく知るよい機会となります。今回も図書館職員から取り組み状況を聞く中で、学ぶことが多くありました。

近年、図書館協議会の開催回数は減少しており、今期（第 19 期）は 10 回です。その中で、図書館評価の議論はかなりの割合を占めています。図書館評価の重要性は言うまでもないですが、町田市の図書館では、電子図書館を始めとした新しい取り組みの一方、資料費の減少、指定管理者制度・カウンター委託の導入など新たな課題・状況も生まれています。また、鶴川図書館の将来のあり方も重要な課題であります。そうした課題を、現在の議論の進め方では十分検討することができていないことは確かであります。今後、図書館評価の質を落とさずに、そうした課題をしっかりと議論することは図書館協議会にとって重要なことです。今後、図書館評価のあり方について、協議会で議論できればと考えています。

図書館からの報告事項

1 町田市教育委員会の動向

(1) 第9回定例会(12月22日)

- ・報告事項 南町田駅前連絡所の閉所に伴う予約資料受渡しサービス拠点の移転について 【資料5】

2 町田市議会の動向

(1) 第4回定例会(11月30日～12月23日)

①図書館に関連する議案等

- ・第103号議案 町田市個人情報保護条例の廃止に伴う関係条例の整理に関する条例
⇒ 図書館条例を含む25の条例の文言を整理

②一般質問

- ・渡辺さとし議員「鶴川図書館再整備について」(12月8日)
 - (1)「鶴川図書館再編に伴う市民協働型の運営について」文書発出の背景について
 - (2)蔵書減少における子どもへの影響について
- ・田中美穂議員「鶴川図書館について」(12月8日)
 - (1)取り組み状況と今後について問う。
 - (2)「公立図書館」としての存続を求めるがどうか。

③文教社会常任委員会(12月13日)

- ・行政報告 鶴川図書館再編に向けた取組状況について
- ・行政報告 南町田駅前連絡所閉所後の行政サービスについて(市民部)

3 各種計画(町田市5ヵ年計画22-26、公共施設再編計画、生涯学習推進計画、アクションプランなど)に基づく取組み

(1) 鶴川図書館の再編に伴う市民協働型の運営について【資料6-1、2】

(2) 鶴川駅前図書館の運営状況について

①労働条件モニタリング研修の実施

- ・実施日: 12月20日
- ・講師: 東京都社会保険労務士会
- ・受講者: 図書館担当者 9名

②「町田市教育委員会指定管理者運営状況評価委員会」による評価の検証体制について

☞委員会による評価の検証は、通常は指定管理期間中に1回ですが、鶴川駅前図書館については、部会※を設置し、毎年度検証をする体制とします。

※図書館に関する学識経験者2名の臨時委員で構成

③利用状況について【資料7】

(3) 利用者アンケートの実施について【当日配布資料】

資料 5

南町田駅前連絡所の閉所に伴う

予約資料受渡しサービス拠点の移転について

町田市立図書館では、図書館が近くにない地域において、インターネット等で予約した資料を受け取ることができる「予約資料受渡しサービス」を市内5か所の公共施設等で提供しています。

このたび、本サービスを提供する拠点のひとつである南町田駅前連絡所が2023年1月31日に閉所することになりました。つきましては近隣施設に移転し、新たに民間事業者に業務を委託のうえ、地域における本サービスを継続いたします。

1 サービス拠点の移転先

名称：まちライブラリー@南町田グランベリーパーク

住所：町田市鶴間3-1-4 グランベリーパーク パークライフ棟

2 委託事業者

一般社団法人まちライブラリー

3 利用できるサービス

町田市立図書館の資料の受取、返却、リクエスト用紙による予約

4 移転先におけるサービス開始日

2023年2月1日（水曜日）

5 サービス提供時間など

11:00から19:00まで

（但し土曜日・日曜日・休祝日は18:00まで）

休業日：火曜日・年末年始

6 その他

南町田駅前連絡所における本サービスの提供は2023年1月31日をもって終了いたします。



鶴川図書館の再編に伴う市民協働型の運営について

公共施設再編後の鶴川図書館の姿について、再編を通じて公共空間としての新たな価値をつくるため、2019年度から地域との対話を進めてまいりました。

また、2021年2月、3月に実施したワークショップ「鶴川図書館再編後の姿を考える」では、多くの提案をいただきました。

これまでみなさまからいただいたご意見を踏まえ、市としての方向性をまとめましたので報告します。

1 現状と課題

<現状>

- ・来館者数や貸出冊数の減少
- ・スペースが狭く居心地が良くない
- ・コミュニティが形成されているというご意見
- ・UR都市機構による団地の建替計画
- ☛機能転換の機会がある

<課題>

- ・地域に必要な図書機能への再編
- ・コミュニティ機能の継続と強化
- ・多様化する地域ニーズへの対応力強化

<課題解決策>

鶴川図書館が地域のハブとなり、豊富な地域資源と結びつくことで、現在の取組の拡充や抱える課題の改善に繋がるのではないかと

市民協働型運営の実現

2 市民協働型の運営後の姿

(1) コンセプト

- ・地域の地域による地域のための公共空間
- ・幅広い世代に欠かせない“本”を通じて人・まち・文化のハブとなる図書コミュニティ施設

(仮キャッチフレーズ)

①『地域のやってみたい、をカタチにする団地のタマリバ、市民図書室つるだん』愛称つるたま

②一本を通じて人・まち・文化をつなぐ 「暮らしに寄り添う図書施設 つるかわライズ」

(2) 主な機能



地域が運営する
図書コミュニティ施設

- ・興味深く、魅力的な本に出会える
- ・誰もが無料で借りられる
- ・目的や用事がなくても気軽に過ごせる
- ・地域のニーズに沿った蔵書の提供
- ・本を通じて、世代や地域を超えた多様な人と出会いつながることができる

- ・利用者やスタッフとの会話を生み出す
- ・多世代が交流できるきっかけの提供
- ・地域活動へのコーディネート
- ・まちの情報発信
- ・居心地の良い空間がある

- ・運営に参画する団体数等の増加
- ・地域住民の活躍の機会がある
(雇用や活動、発表の機会など)
- ・自分の楽しみを探せる
- ・まちへの愛着がわく
- ・まちが好きになる

3 これからの方向性（案）

- ・鶴川図書館を民設民営の地域施設へ転換（2026 年度を目途）
- ・公立図書館では実現できなかった物販や飲食など、商店街隣接の利点を最大限活かす
- ・地域が管理できる蔵書規模の図書機能と地域活動につなげるコミュニティ機能を提供
- ・町田市が運営費を補助（ボランティアベースではなくある程度の報酬が受けられることを想定）
- ・地域が設立する団体が運営することで、地域住民の活躍の機会を創出（雇用や活動、発表の機会など）

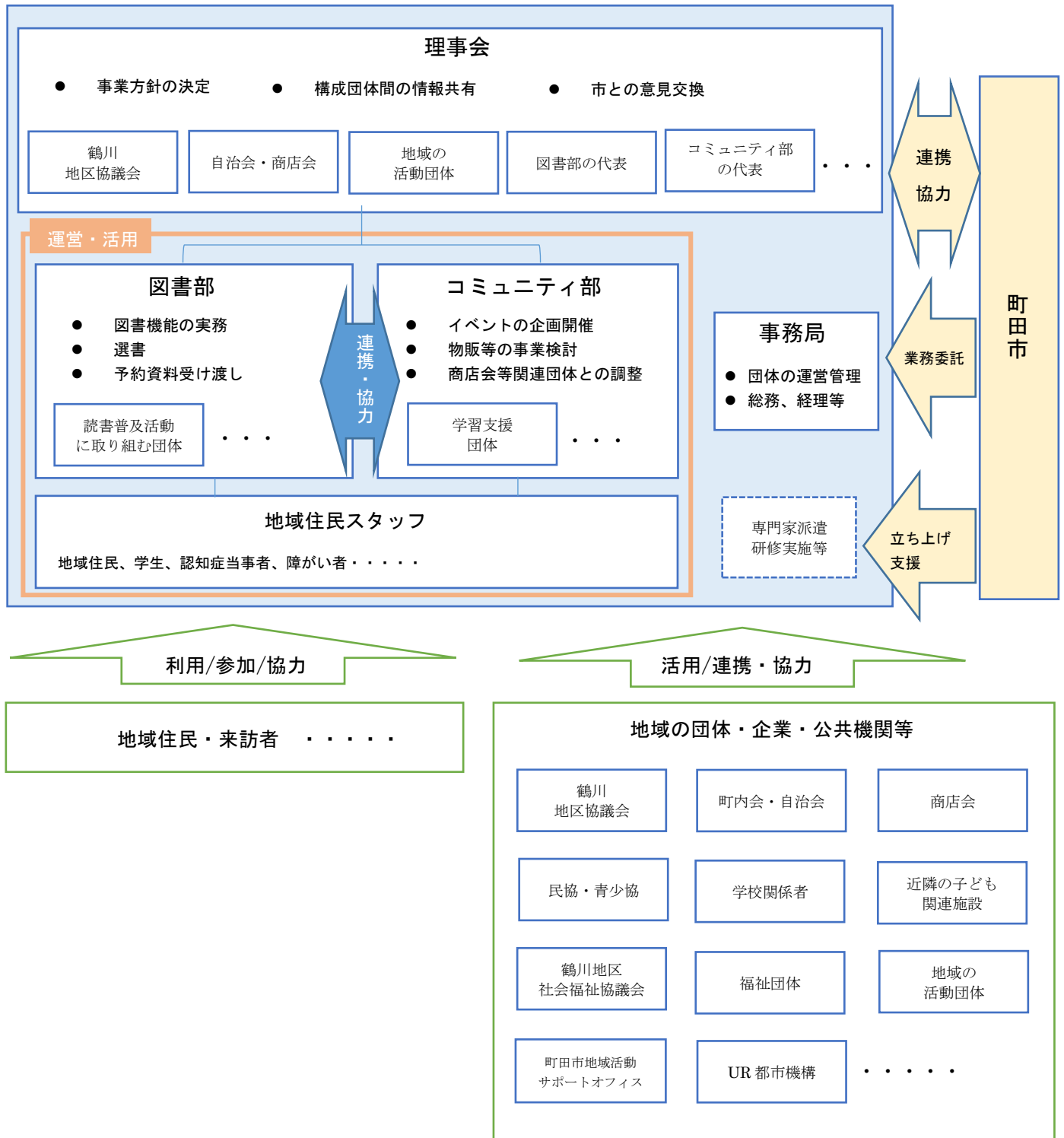
4 市民協働型の運営に伴う現在との機能比較

	現在	市民協働型の運営後	拡充or集約
図書機能	・市立図書館の蔵書。幅広いジャンルを揃えている。 ・国会図書館や都立図書館、他自治体の図書館から取り寄せが可能。	・地域がほしい資料を自分たちで選んで揃える。 ・市立図書館の蔵書は置かない。ただし、予約した資料の受け渡しや団体貸出を利用して一定期間置くことは可能。 ・国会図書館や都立図書館、他自治体の図書館からの取り寄せは鶴川駅前図書館で実施。	拡充 鶴川駅前図書館へ集約
図書相談機能	・読書案内、読書相談の実施。 ・利用者の調査・研究の支援（レファレンス）を実施。	・住民や地域団体からのそれぞれのおすすめ本を紹介でき、多様な読書案内が可能。 ・レファレンスは鶴川駅前図書館で提供可能。 ・読書相談であれば人材を確保の上提供可能。	拡充 鶴川駅前図書館へ集約
居場所機能	・館内に数席の閲覧席がある。 ・会話は控え、静かに過ごす場所。	・ゆとりある座席や居心地の良い空間を提供。 ・カフェ程度の会話ができる。 ・利用者同士やスタッフとの何気ない会話が生まれる。	拡充
地域情報紹介 地域イベント開催	・地域の情報はレファレンスによって提供している。 ・イベントは直営でのみ実施。	・自分に合った地域の取組が何かを一緒に考えてくれる。 ・地域住民を地域の取組やイベントにつなげるコーディネイトを実施。 ・地域団体主催のイベントを中心に実施。 ・ICTなどを活用した情報発信により、情報にアクセスしやすくなる。	拡充
飲食・物販	・蓋つきの飲み物は可能。食事は不可。 ・物販はしていない。	・飲食可能。イベントによっては、商店街の品物を使って昼食・夕食会を実施。 ・住民がつくった手作りを販売。物販フリーボックスを配置	拡充
地域の 運営への参加	・おはなし会ボランティアなど限られた範囲で参加。	・限られた枠組みの中での参加ではなく、主体的にやってみたいことを提案し、仲間と一緒に実現できる。 ・全体運営の中で、地域の声に合わせた柔軟な取り組みを試行できる。	拡充

5 スケジュール（URによるセンター街区建替え説明会が 2022 年度に実施された場合を想定）

年度	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033
施設位置	現在地	現在地	現在地	現在地	現在地	現在地	仮設	仮設	仮設	仮設	仮設	新施設
運営形態	直営		直営 一部業務委託		自主運営(町田市が運営費を補助)							
蔵書規模	約49,000冊		規模の縮小 (時期は検討状況による)		地域が管理できる規模の蔵書数							
施設の位置づけ	図書館法上の図書館				地域施設(民設民営の図書コミュニティ施設)							

6 【参考】開始時の運営イメージ



■現状と課題の詳細

地域からの意見

＜図書機能＞

- ・最低限、図書館システムへの接続と司書の常駐はしてほしい。
- ・図書館法上の図書館で他館から本を取寄せられるようにしてほしい。
- ・千冊を超える選書は専門知識がないと困難。
- ・地域住民に運営をまかせるのなら、自動化の仕組みは必要。
- ・近くに住んでいるので子どもの頃から鶴川図書館を使っているが、近頃では予約した本の受け取りしかしていない。
- ・図書館はあまり使ったことがない。本は買う派。
- ・認知症の人が働ける場があるとよいが、図書館の本の分類は難しいので、働きやすくしてほしい。
- ・小さい図書館は大きい図書館に蔵書ではかなわない。
- ・「いつも同じ本がある状態」でないようにすれば良い。

＜コミュニティ機能＞

- ・人が集まる場として図書館が残ってくれるならば良い。
- ・地域のコミュニティスペースとして商店街と一体となって地域に必要な施設の一つ。単に利用者の減少を理由とせずなくさないでほしい。
- ・近隣の大学と連携できると活気がでるのではないかな。
- ・今の鶴川図書館は居心地が悪いのですぐ帰っている。
- ・もっと座るスペースがほしい。
- ・ニューヨーク図書館のように、司書がコンシェルジュのような役割を果たせると良い。
- ・再編によって子ども達の居場所になるとよい。

＜再編への思い＞

- ・地域に新たな価値が生まれるなら再編を進めるのが良いと思う。
- ・親子3世代で通っているので何らかの形で残してほしい。
- ・鶴川図書館を新しくしても今以上の利用者は見込めない。
- ・鶴川図書館が地域に求められているのかなどを検討した方がよい。
- ・鶴川図書館はそのままの存続を望む。

＜課題解決策＞

市民協働型運営の実現

＜なりたい姿＞

- ・地域に欠くことのできない本と触れ合う場がある
- ・特に理由が無くとも気軽に訪れられる居場所
- ・地域のやってみたいことを実現(実験)できる

＜課題＞

- ・地域に必要な図書機能への再編
- ・コミュニティ機能の継続と強化
- ・多様化する地域ニーズへの対応力強化

＜鶴川図書館の利用状況＞

- ・2011年度にはさるびあ図書館に次いで3位だった貸出数は、2021年度は最下位。
- ・2021年度の来館者数は、鶴川図書館のみ大きく減少している。2022年度4～7月では最下位
- ・鶴川図書館は貸出中心の利用状況となっている。
- ・鶴川図書館では「貸出・返却」が81%、「学習・調べ物」は7%。
- ・鶴川駅前図書館では、「貸出・返却」が77%、「学習・調べ物」は17%
- ・全館平均では「貸出・返却」が79%、「学習・調べ物」は14%。

町田市の計画

＜効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン＞

2020年2月

- ・鶴川団地センター街区建替え計画の進捗に応じて、再編を進める。
- ・建て替えが長期化する場合は代替機能の配置などを先行して実施。
- ・代替機能配置にあたっては、地域団体等による運営を支援する体制を検討。

＜町田市都市づくりのマスタープラン＞ 2022年3月

- ・鶴川団地を「暮らしのかなめ(今ある者を支え育む場)」として設定。
- ・団地センターを活用した地域の生活交流拠点の再生や、豊かなコミュニティのある団地づくりを主な取組として設定。

＜町田市地域ホッとプラン＞ 2022年3月

- ・鶴川図書館の再編に関する内容は以下の通りです。
- 基本目標「今を生きる自分に合ったつながりをつくる」
- 基本施策「地域への意識・関心が高まる」
- 取組施策「コミュニケーションが生まれるきっかけづくり」

＜町田市鶴川団地と周辺地区再生方針＞ 2016年3月

- ・「多世代が一緒に住めるまち」をまちづくりの目標として設定。
- ・目標達成に向けたアクションとして取組を示しており、鶴川図書館の再編に関する内容は以下のとおり。
- 子どもが安心して過ごせる場づくり
- 親が孤立せず子育てできる場づくり
- 気軽に参加できる地域のコミュニティの場づくり

■ 利用状況_月別貸出冊数及び来館者数の2022年度／2019年度各館比較

来館者数	4月			5月			6月			7月			8月			9月		
	2022年度	2019年度	2019年度比	2022年度	2019年度	2019年度比	2022年度	2019年度	2019年度比	2022年度	2019年度	2019年度比	2022年度	2019年度	2019年度比	2022年度	2019年度	2019年度比
鶴川駅前図書館	24,307	25,924	93.8%	24,609	27,616	89.1%	26,913	26,722	100.7%	30,933	31,143	99.3%	34,648	33,559	103.2%	30,273	27,964	108.3%
中央図書館	41,612	48,840	85.2%	43,902	53,486	82.1%	43,636	51,151	85.3%	47,121	55,138	85.5%	45,804	56,686	80.8%	45,486	50,631	89.8%
さるびあ図書館	11,307	16,518	68.5%	11,635	14,864	78.3%	9,895	15,652	63.2%	10,860	18,542	58.6%	11,178	21,151	52.8%	10,004	18,863	53.0%
鶴川図書館	4,733	12,560	37.7%	5,207	15,248	34.1%	3,471	13,897	25.0%	5,480	13,392	40.9%	4,714	14,052	33.5%	5,098	14,525	35.1%
金森図書館	13,408	20,823	64.4%	11,424	20,888	54.7%	10,566	20,867	50.6%	18,650	22,326	83.5%	20,525	24,718	83.0%	19,392	21,488	90.2%
木曽山崎図書館	11,919	20,936	56.9%	17,573	21,733	80.9%	14,555	19,161	76.0%	13,850	20,073	69.0%	13,093	19,467	67.3%	13,124	18,520	70.9%
堺図書館	4,865	6,272	77.6%	5,489	6,814	80.6%	6,125	5,905	103.7%	7,077	8,147	86.9%	5,788	7,240	79.9%	4,665	5,977	78.0%
忠生図書館	13,398	15,843	84.6%	13,815	16,715	82.7%	13,568	17,823	76.1%	15,832	20,475	77.3%	14,294	23,197	61.6%	11,999	17,604	68.2%
直営地域館全体	59,630	92,952	64.2%	65,143	96,262	67.7%	58,180	93,305	62.4%	71,749	102,955	69.7%	69,592	109,825	63.4%	64,282	96,977	66.3%
直営館全体	101,242	141,792	71.4%	109,045	149,748	72.8%	101,816	144,456	70.5%	118,870	158,093	75.2%	115,396	166,511	69.3%	109,768	147,608	74.4%
市立図書館全体	125,549	167,716	74.9%	133,654	177,364	75.4%	128,729	171,178	75.2%	149,803	189,236	79.2%	150,044	200,070	75.0%	140,041	175,572	79.8%

貸出点数	4月			5月			6月			7月			8月			9月		
	2022年度	2019年度	2019年度比	2022年度	2019年度	2019年度比	2022年度	2019年度	2019年度比	2022年度	2019年度	2019年度比	2022年度	2019年度	2019年度比	2022年度	2019年度	2019年度比
鶴川駅前図書館	31,818	36,932	86.2%	32,556	35,663	91.3%	30,669	36,121	84.9%	34,463	40,476	85.1%	35,209	40,949	86.0%	30,673	34,772	88.2%
中央図書館	60,891	75,392	80.8%	62,535	76,371	81.9%	59,165	77,657	76.2%	65,420	79,028	82.8%	62,632	80,421	77.9%	58,838	71,612	82.2%
さるびあ図書館	17,531	20,360	86.1%	17,674	19,963	88.5%	17,508	21,448	81.6%	19,267	22,551	85.4%	19,907	23,574	84.4%	18,171	21,228	85.6%
鶴川図書館	11,397	12,700	89.7%	11,139	12,105	92.0%	10,340	12,858	80.4%	12,070	13,644	88.5%	12,257	14,451	84.8%	10,917	12,398	88.1%
金森図書館	40,953	45,175	90.7%	41,649	45,239	92.1%	40,018	48,070	83.2%	46,079	48,923	94.2%	45,956	53,569	85.8%	40,836	44,013	92.8%
木曽山崎図書館	14,380	15,757	91.3%	14,595	15,656	93.2%	13,549	15,851	85.5%	14,058	16,973	82.8%	14,896	17,679	84.3%	13,728	15,683	87.5%
堺図書館	10,308	9,471	108.8%	9,963	10,120	98.4%	9,362	10,588	88.4%	11,185	10,898	102.6%	10,238	11,125	92.0%	9,830	9,896	99.3%
忠生図書館	30,361	33,649	90.2%	30,399	33,352	91.1%	28,552	36,878	77.4%	36,644	40,767	89.9%	37,044	43,236	85.7%	31,902	34,326	92.9%
直営地域館全体	124,930	137,112	91.1%	125,419	136,435	91.9%	119,329	145,693	81.9%	139,303	153,756	90.6%	140,298	163,634	85.7%	125,384	137,544	91.2%
直営館全体	185,821	212,504	87.4%	187,954	212,806	88.3%	178,494	223,350	79.9%	204,723	232,784	87.9%	202,930	244,055	83.1%	184,222	209,156	88.1%
市立図書館全体	217,639	249,436	87.3%	220,510	248,469	88.7%	209,163	259,471	80.6%	239,186	273,260	87.5%	238,139	285,004	83.6%	214,895	243,928	88.1%

■ 利用状況_月別貸出冊数及び来館者数の2022年度／2019年度各館比較

来館者数	10月			11月			12月			1月			2月			3月			4月～11月累計		
	2022年度	2019年度	2019年度比	2022年度	2019年度	2019年度比	2022年度	2019年度	2019年度比	2022年度	2019年度	2019年度比	2022年度	2019年度	2019年度比	2022年度	2019年度	2019年度比	2022年度	2019年度	2019年度比
鶴川駅前図書館	32,088	26,051	123.2%	31,243	28,074	111.3%	0	20,826	0.0%	0	24,849	0.0%	0	29,343	0.0%	0	5,388	0.0%	235,014	227,053	103.5%
中央図書館	45,535	49,128	92.7%	40,024	49,475	80.9%	0	38,994	0.0%	0	43,346	0.0%	0	48,403	0.0%	0	8,012	0.0%	353,120	414,535	85.2%
さるびあ図書館	10,258	16,025	64.0%	9,864	15,336	64.3%	0	12,145	0.0%	0	14,254	0.0%	0	17,234	0.0%	0	2,560	0.0%	85,001	136,951	62.1%
鶴川図書館	6,411	12,415	51.6%	5,937	12,241	48.5%	0	9,156	0.0%	0	10,953	0.0%	0	12,528	0.0%	0	2,406	0.0%	41,051	108,330	37.9%
金森図書館	20,597	20,417	100.9%	21,969	20,434	107.5%	0	15,959	0.0%	0	19,323	0.0%	0	22,797	0.0%	0	6,406	0.0%	136,531	171,961	79.4%
木曽山崎図書館	14,272	18,234	78.3%	14,394	17,618	81.7%	0	12,255	0.0%	0	13,475	0.0%	0	16,856	0.0%	0	1,542	0.0%	112,780	155,742	72.4%
堺図書館	5,057	5,755	87.9%	4,925	5,538	88.9%	0	4,166	0.0%	0	4,911	0.0%	0	5,643	0.0%	0	1,423	0.0%	43,991	51,648	85.2%
忠生図書館	12,624	17,333	72.8%	13,961	16,716	83.5%	0	12,206	0.0%	0	22,545	0.0%	0	17,647	0.0%	0	2,748	0.0%	109,491	145,706	75.1%
直営地域館全体	69,219	90,179	76.8%	71,050	87,883	80.8%	0	65,887	0.0%	0	85,461	0.0%	0	92,705	0.0%	0	17,085	0.0%	528,845	770,338	68.7%
直営館全体	114,754	139,307	82.4%	111,074	137,358	80.9%	0	104,881	0.0%	0	128,807	0.0%	0	141,108	0.0%	0	25,097	0.0%	881,965	1,184,873	74.4%
市立図書館全体	146,842	165,358	88.8%	142,317	165,432	86.0%	0	125,707	0.0%	0	153,656	0.0%	0	170,451	0.0%	0	30,485	0.0%	1,116,979	1,411,926	79.1%

貸出点数	10月			11月			12月			1月			2月			3月			4月～11月累計		
	2022年度	2019年度	2019年度比	2022年度	2019年度	2019年度比	2022年度	2019年度	2019年度比	2022年度	2019年度	2019年度比	2022年度	2019年度	2019年度比	2022年度	2019年度	2019年度比	2022年度	2019年度	2019年度比
鶴川駅前図書館	31,862	34,977	91.1%	30,151	34,545	87.3%	0	28,138	0.0%	0	32,702	0.0%	0	38,300	0.0%	0	10,700	0.0%	257,401	294,435	87.4%
中央図書館	59,776	71,053	84.1%	54,226	70,649	76.8%	0	61,620	0.0%	0	64,664	0.0%	0	74,565	0.0%	0	14,335	0.0%	483,483	602,183	80.3%
さるびあ図書館	17,841	21,357	83.5%	16,863	20,263	83.2%	0	16,165	0.0%	0	18,064	0.0%	0	21,620	0.0%	0	5,750	0.0%	144,762	170,744	84.8%
鶴川図書館	10,878	12,867	84.5%	10,615	12,447	85.3%	0	10,012	0.0%	0	11,098	0.0%	0	12,926	0.0%	0	4,381	0.0%	89,613	103,470	86.6%
金森図書館	40,958	43,082	95.1%	39,678	41,002	96.8%	0	34,260	0.0%	0	38,635	0.0%	0	46,282	0.0%	0	11,290	0.0%	336,127	369,073	91.1%
木曽山崎図書館	14,475	16,199	89.4%	13,796	15,561	88.7%	0	12,634	0.0%	0	14,079	0.0%	0	16,132	0.0%	0	3,771	0.0%	113,477	129,359	87.7%
堺図書館	9,584	9,997	95.9%	9,671	9,880	97.9%	0	7,944	0.0%	0	9,204	0.0%	0	11,214	0.0%	0	2,482	0.0%	80,141	81,975	97.8%
忠生図書館	31,426	35,401	88.8%	29,778	33,097	90.0%	0	27,537	0.0%	0	30,268	0.0%	0	36,747	0.0%	0	8,089	0.0%	256,106	290,706	88.1%
直営地域館全体	125,162	138,903	90.1%	120,401	132,250	91.0%	0	108,552	0.0%	0	121,348	0.0%	0	144,921	0.0%	0	35,763	0.0%	1,020,226	1,145,327	89.1%
直営館全体	184,938	209,956	88.1%	174,627	202,899	86.1%	0	170,172	0.0%	0	186,012	0.0%	0	219,486	0.0%	0	50,098	0.0%	1,503,709	1,747,510	86.0%
市立図書館全体	216,800	244,933	88.5%	204,778	237,444	86.2%	0	198,310	0.0%	0	218,714	0.0%	0	257,786	0.0%	0	60,798	0.0%	1,761,110	2,041,945	86.2%

2022年度 図書館利用者アンケート（総合満足度抜粋版）

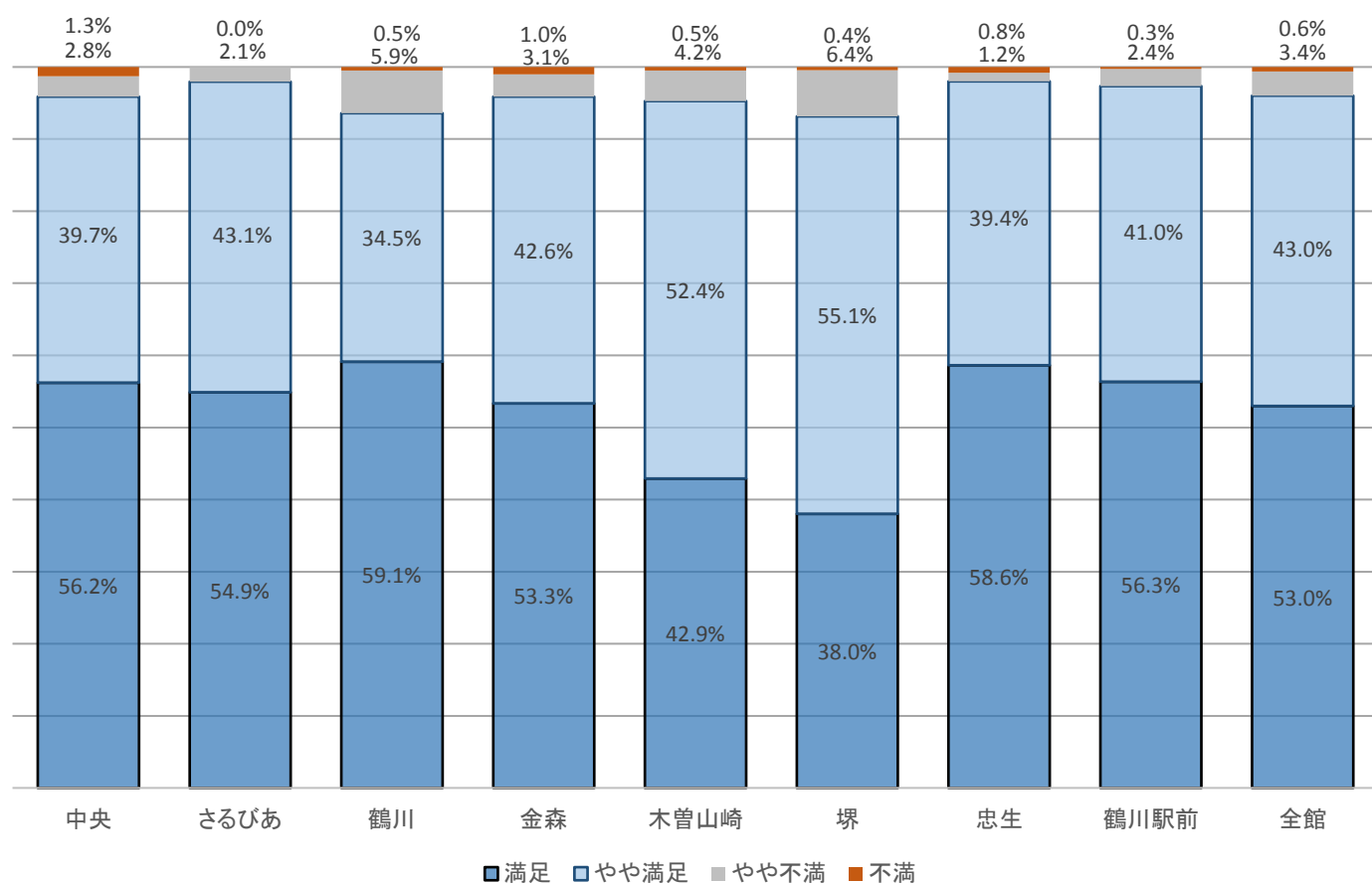
調査期間 2022年12月1日(木)～12月7日(水)
(鶴川駅前のみ 2022年11月22日(火)～11月26日(土))

回答件数

中央	さるびあ	鶴川	金森	木曽山崎	堺	忠生	鶴川駅前	全館合計
416件	206件	206件	220件	246件	240件	260件	421件	2215件

V 総合満足度について

図書館サービスについて、総合的にどの程度満足していますか。



※無回答除く

V 総合満足度について

	回答	件数	割合	理由(抜粋)
中央	満足	218	56.2%	・蔵書数が多く、充実している。(8件) ・外部図書館から取り寄せができる。(3件)
	やや満足	154	39.7%	
	やや不満	11	2.8%	・資料が古い。新しい本を増やしてほしい。(2件) ・本の消毒ボックスを設置してほしい。 ・町田市在住ではないため予約ができない。
	不満	5	1.3%	
さるびあ	満足	107	54.9%	・気軽に利用しやすく、快適に過ごせる。(5件) ・自習室がある。(2件) ・読みたい本や興味の湧く本が充実している。
	やや満足	84	43.1%	
	やや不満	4	2.1%	・読みたい資料を予約しても読めるまで時間がかかる。
	不満	0	0.0%	
鶴川	満足	120	59.1%	・便利で利用しやすく、気軽に借りやすい。(4件) ・子どもが小さい頃から来ていてお気に入りの場所。 ・ちょっと立ち寄りたくなる場所。
	やや満足	70	34.5%	
	やや不満	12	5.9%	・鶴川図書館がなくなる。 ・本の種類が少ない。 ・遅くまで開館してほしい。
	不満	1	0.5%	
金森	満足	104	53.3%	・リクエストができる。(4件) ・無くてはならない施設でいろいろ借りれてありがたい。(2件) ・子ども用の本が充実している。
	やや満足	83	42.6%	
	やや不満	6	3.1%	・予約待ち時間が長い。 ・古い書籍が多い。
	不満	2	1.0%	
木曽山崎	満足	91	42.9%	・静かで親切でゆっくりできる。 ・住まいの近くにあり、買い物途中に利用できて便利。
	やや満足	111	52.4%	
	やや不満	9	4.2%	・予約待ち時間が長い。(2件) ・開館時間を早く、閉館時間をのばしてほしい。
	不満	1	0.5%	
堺	満足	89	38.0%	・ネットから延長の申込、リクエストができる。(3件) ・職員の対応が丁寧で好感が持てる。
	やや満足	129	55.1%	
	やや不満	15	6.4%	・新刊の待ち人数が多い。 ・蔵書数が少ない。
	不満	1	0.4%	
忠生	満足	146	58.6%	・リクエストができる。(5件) ・職員が親切で丁寧。(2件) ・きれいで車もとめやすく利用しやすい。
	やや満足	98	39.4%	
	やや不満	3	1.2%	・新刊が少ない。 ・いつも満車になる。
	不満	2	0.8%	
鶴川駅前	満足	213	56.3%	・立地が良く、館内がきれいで快適に利用できる。(11件) ・職員の対応が親切で丁寧。(6件) ・開館時間が長い。(2件)
	やや満足	155	41.0%	
	やや不満	9	2.4%	・座席数が少ない。(2件) ・もう少し幅広い分野の本を増やしてほしい。 ・マンガ資料の予約ができない。
	不満	1	0.3%	
全館	満足	1088	53.0%	
	やや満足	884	43.0%	
	やや不満	69	3.4%	
	不満	13	0.6%	

全2回
(同内容)

鶴川図書館の再編説明会 を行います

鶴川図書館は今後、地域と「共に創る」「共に運営する」コミュニティ機能を併せ持つ新たな施設へと転換していく予定です。

新たな施設のコンセプトや今後のスケジュールについてご説明します。

2月 8日 (水)

19:00~20:30 (18:30 受付開始)

2月12日 (日)

14:30~16:00 (14:00 受付開始)

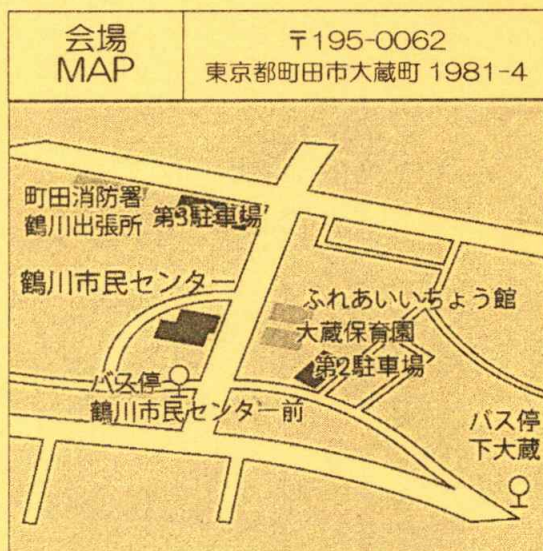


場所：鶴川市民センター ホール

定員：各 150 人

申込：不要（直接会場にご来場ください）

対象：鶴川図書館をご利用の方、
新たな施設に関心のある方、など



鶴川図書館は
どうなるの？



再編って
なに？

コミュニティ機能って
どんな機能だろう？

問合せ先：中央図書館 企画・地域支援係 ☎728-8220